

# 路地空間における祭礼がコミュニティ形成に果たす役割

——廿日市市宮島町の地蔵盆を事例として——

平川 隆啓\*・脇田 祥尚\*\*・森保 洋之\*\*\*

(平成19年10月31日受理)

## The Role Which the Festival Gratitude in the Alleyway Space plays in Community Formation

Takaaki HIRAKAWA, Yoshihisa WAKITA and Hiroshi MORIYASU

(Received Oct.31,2007)

### Abstract

The purpose of this paper is to describe the area that continues keeping historic environment of Miyajima Town, Hatsukaichi-City, Hiroshima. On the basis of an alley and the field survey of the Jizo Bon festival, we emphasize the notion of the space use in the outside space. On historic environment, we are concerned with analysis of the role that a festival plays in the community formation. The cooperation systems which reduced a human scale and coexistence of the community, immanence of the structure of many generations interchange, the existence of the meaning of having the place, a burden of the joint management became clear.

**Key Words:** Miyajima, Jizo Bon festival, community, human scale, festival

### 1. はじめに

#### 1-1 研究の背景・目的

近年、まちづくりを取り巻く環境は、大きく変化した。市民まちづくり活動は、そのカテゴリーを広げ、多様な実践を重ねている。そして、まちづくりの展開にあわせて、住環境も変化してきている。

一方で、地域におけるコミュニティの崩壊という課題は、残されたままだと指摘する声も多く、いかにコミュニティを担保するかは大きなニーズのひとつである。このコミュニティ形成は、身近な住環境の改善にも欠かせない、まちづくりの課題と考える。

本研究は、廿日市市宮島町の祭礼として継承されている

地蔵盆に焦点をあて、路地空間でのコミュニティ形成のプロセスやソフトシステムについて、フィールドワークやヒアリングをもとに詳細に分析しながら明らかにすることを目的とする。

#### 1-2 研究の方法

まず、宮島全体に広がる路地空間の形態や特性を把握し、そのなかでも地蔵盆が行われる路地空間について分析を進める。公共性をおびた外部空間でもある路地空間に着目し、そこでの住民を中心としたコミュニティ形成について、祭礼という事例から考察していく。路地空間を把握するためのフィールドワークは2003年6月より断続的にを行い、対象地域内のすべての路地空間を実地で観察し、必要

\* 広島工業大学大学院環境学研究科地域環境科学専攻

\*\* 近畿大学理工学部建築学科

\*\*\* 広島工業大学環境学部地域環境学科

に応じ図面を実測により採集した。地蔵盆は2006年8月24日に参与観察を行い、参加者の行動を詳細に記録、ヒアリングを実施した。

### 1-3 対象地の概要

宮島は長さ約9km、幅約6kmのほぼ長方形で、西岸を幅わずか500mの大野瀬戸を挟み広島湾の中に浮かぶ一つの島である。1300年代に島内に民家が建ち並び始め、門前町が形成されていったとされる。その門前町は、社家の集まる社家町と、商家の集まる商家町に大別できる。現在、人口は約2千人、サービス業従事者は8割におよび、その他業種従業者も何らかの形で観光サービスに関わることの多い市街地である。しかし、一方では、観光客の入り込まないエリアも混在する。対象地域は、港周辺の港町・胡町地区から、厳島神社周辺の本町地区の久保町までの商家町のエリアとする。

## 2. 外部空間の形態

### 2-1 路地の分布

幅員2.5m未満の通路を有し、住宅と接する空間を路地空間とし、フィールドワークにもとづき32事例を調査対象とした。その多くが観光客の行き来しない場所である。

路地空間の分布状況を整理すると、広く点在していることが確認できる(図2)。また、2.5m以上の幅員により構成された通路としては、厳島神社への参道として計画された道が、そのほとんどを占める。

宮島では、近世以降に町家が密集し、市街地が構成された。漸進的に町家の改修を繰り返してきたため、大きく市街地の構造は変わっていない。計画的な街路は特になく、密集という過程で、住宅へのアクセス、井戸へのアクセスなど、生活のための外部空間として、路地空間が市街地全体に分布していったと考えられる。

### 2-2 空間形態の分類

はじめに、対象とした32事例の路地空間を、採集図面やD/H比等を用い、断面・平面形態を総覧し、空間形態について整理した(表1、図1)。

まず、1本の路地が直線で構成されているものを直線型、折れ曲がりを含むものを曲折型、路地同士が交差しているもの等を交差型、の3つのタイプに分類できる。

さらに、路地空間のスケールについて、大きく3つのタイプが確認できた。調査対象は、2.5m未満の幅員をふくむ空間であることから、ヒューマンスケールの要素を内包していると考えられるが、そのなかでの3つの分類である。

平面形態との対応をみると、周辺建物の高さの低いタイプで曲折型が、高い比較的高密度なところでは交差型や直

線型が見られる傾向がわかる。これらをふまえ、個々の路地空間の特性を把握した。

#### (1) スケール

路地空間の幅員に対して周辺建物が高いケースと低いケースに大別できる。高いケースは、3階以上の建物が立つ場合に加え、上部に物干し台などの増設により高さが増す場合もあり、壁面がいくつにも分節されていた。このことは、大きな連続壁面によるスケール感の軽減と、適度な増改築の両立を示していると考えられる。低いケースでは、幅員の広さによってさらに2つのタイプが見受けられる。D/H値は調査した全ての路地空間でD/H値<0.7となった。

#### (2) 平面形態

直線型と曲折型と交差型の3タイプに分類できる。また、直線型は、比較的事例が少なく、何らかのかたちで曲折するものが多く見られる。このことは、地形に従った路地空間の構成や、建物同士のずれによる路地空間の変化などによるものだと考えられる。

交差型の場合も、曲折型のものが交わるなど、連続的な変化が見られる。交差するところや、神社や地蔵堂の前面等、その場所が広く確保されている路地も確認できた。

#### (3) あふれだし

路地空間の利用形態を総覧すると、商業・工芸等に使われるケースと、生活の場面で使われるケースに分けられる。主に、参道付近の商業活動が活発なエリアでは、商品や物品があふれだし、住宅が建ち並ぶエリアでは、家事や植栽などの生活に準じる行為が見受けられる。ただ、完全にすみわけがなされているのではなく、混在しつつバランスをとっているといえる。

## 3. 地蔵盆の空間利用

### 3-1 路地空間での祭礼

#### (1) 宮島の祭礼

宮島町の外部空間を中心に、フィールドワークを断続的に繰り返し、路地空間の形態や利用について調査を進めてきた。その路地空間のいくつかは、祭礼の場所として継承されている。宮島町における祭礼の全体を把握するために、個々の祭礼・行事について、場所との関係について整理する(表2)。

路地空間のなかで行われる祭礼として、地蔵盆の存在が確認できる。宮島町内には、地蔵盆以外の祭礼も数多く見受けられるが、そのほとんどのケースは、社寺、海や浜や山、参道等、目立って信仰の対象となる場所で行われ、路地空間の活用する事例は数少ない。

この地蔵盆だが、道祖神など、厳島神社とのかかわりが非常に薄い信仰によって成り立っている。一方、その他の

祭礼をみると、厳島神社の信仰を基盤に行われるものが多い。厳島神社の組織的な支援が働いているものと考えられる。このことから、地蔵盆がその地域の住民たちによる自律したコミュニティによって実施されていると推察できる。この路地空間での地蔵盆を調査・分析することで、住民発意のコミュニティ形成に果たす役割を明らかにしていく。

(2) 地蔵盆の概要

地蔵盆は、うら盆で成仏できぬものをすべて拾い上げて供養する行事である。地蔵祭、地蔵さん祭りとも呼ばれる。宮島島内の地蔵は、寺の本尊となっているものが1事例(徳寿寺)、寺に所属するが、寺の中には祭られていないものが5事例(宝寿院、存光寺、大願寺、大聖院、光明院)、井戸(誓真釣井)をまつもの1事例(港町誓真地蔵)、町内にあるもの5事例(桜町、南町、魚の棚、中西、杉の浦)がある。その中でも、中西は7月24日、杉の浦は8月24日、徳寿寺・港町・魚の棚・桜町は8月24日に行われる。法要のあとは、直会(ナオライ・接待)がある。

このなかでも路地での利用が活発な港町と魚の棚の事例について参与観察することにした。

3-2 地蔵盆における空間利用の特性

(1) 対象地の路地空間の特性

ここからは、参与観察を行った港町の事例を中心に、路地の利用形態について考察を進める。まずは、対象地である港町について整理する(図3)。港町は、近世に海岸線に沿って切妻平入りの奥行き長い建物が形成された。現在は、海が埋めたてられ、海岸線は車道となり、広場が整備されているが、街路形態は踏襲されている。建物は、主に1階部分が商業スペースで、2階以上が居住スペースとして使われている。商業の内容は、海産品・菓子の製造・販売、飲食・旅館のサービス等が混在している。

海岸線に対して垂直方向に30mほどの路地がはしって

いる。その突き当たり奥に、井戸、地蔵堂の順に設置されている。路地は、海岸線沿いの建物の裏側にも通じ、その路地を挟んでさらに奥側の建物裏側にも路地がある。この路地では日常的には海産品の販売(住民対象)や家事に使われる物品のあふれ出しなどが見られる。井戸も打ち水や清掃等に使われ、飲用も可能である。井戸の前を通るときなど、地蔵の前で手を合わせ拝む、花を供える等の、住民たちによる日常的な慣習も見受けられる。

(2) 参加者の概要

次に、地蔵盆の様子を記述する。地蔵盆の参加者は合計で28人である。子ども(幼児・児童)を除くと、男性が8人、同じく女性は14人が参加した。子どもは小学生が5人と幼児が1人である。また、参加者のなかには、この行事を取り仕切る総代(町内会の会長)である男性1人と、法要を行う住職(宝寿院)の男性1人が含まれている。

地蔵盆は、地蔵の前面に広がる路地空間で行われた。8月24日16:06に法要がはじまり、20:30に直会が終わった。

(3) 祭礼のプロセス

地蔵盆における利用のプロセスを記述する。ここでは、人々の活動と、路地空間での位置関係に着目し整理する。(図4、表3、表4)

地蔵盆は、儀礼の視点から法要と直会の2つに分けることができる。また、参加者の活動の変化という点から、その間に作業を分類した。前日には笹竹の飾りつけや、井戸の清掃などが行われた。

① 地蔵盆・法要

地蔵盆の法要は、住職が地蔵の前に席をおき、住民が路地にイスを並べて地蔵に向かって進められる。法要の内容は、経の唱和と、焼香である。このとき地蔵堂には、笹竹に短冊を施したものが飾りつけられ、供え物である果物や菓子類が陳列される。飾りつけは前日に住民が手がけ、井戸の清掃もあわせて行われる。

表1 路地空間のスケールと平面形態

路地空間のスケールと形態	直線型	曲折型		交差型		計
		I	II	I	II	
幅員1~1.5m	4	4	2			10
幅員1.5~2m	4	4	7	2	1	16
幅員2~2.5m		1	1	2		2
周辺の高さ2.5~5m	3		4			7
周辺の高さ5~7.5m	2	5	4	1		14
周辺の高さ7.5~10m		3	2	3	1	5
周辺の高さ10~12.5m	1					1
周辺の高さ12.5m以上		1				1
D/H比0~0.1		1				1
D/H比0.1~0.2	2	3	1			6
D/H比0.2~0.3	4	4	4	4	1	12
D/H比0.3~0.4	1	1				2
D/H比0.4~0.5			5			5
D/H比0.5~0.6	1					1
D/H比0.6~0.7	1					1

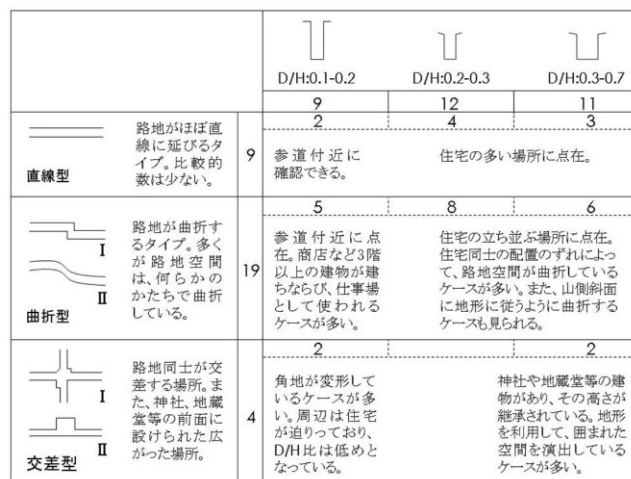


図1 路地空間の形態と特性





図2 路地空間の分布



図3 港町地区の概要

利用の概要  
人数: 19人 (女性16、男性2、住職1)  
時間: 16:06-16:23 (22分)  
内容: 地蔵盆の法要 (お経の唱和と焼香)

参加者の位置関係  
年長の女性が前列に並び、男性の年長 (総代) が後列に並ぶ。

参加者の行動  
位置関係をふまえて、年長の女性から順に焼香をおこなうために地蔵前に移動する。

利用の概要  
人数: 7人 (女性7)  
時間: 16:35-17:00 (25分)  
内容: 供え物の住長への分配作業

参加者の位置関係  
最年長70代の女性から、40代の女性が1人、2つの長テーブルを囲むようにして、供え物の分配作業にあたる。

参加者の行動  
年長が囁から作業を指示し、40-50代の女性が実践的に作業をすすめる。

利用の概要  
人数: 22人 (女性9、男性8、子ども5)  
時間: 18:15-20:40 (145分)  
内容: 直会 (焼後の宴會)

参加者の位置関係  
男性が前列に並び、子どもが後列、子どもの面影を見るように女性が中列に並ぶ。

参加者の行動  
大人は酒を飲み交わし町内のこと等を話し合い、子どもは料理を食べながら遊ぶ。

16:06 地蔵盆の法要がはじまる  
住職による経典が参加者に手渡される。住職が地蔵の前に入り、お経が囁みられる。参加者も経典を見ながら、住職とともにお経を囁む。

16:18 焼香がはじまる  
住職がお経を囁みながら、参加者である住民は女性の年長者から順に焼香をはじめ。一人ずつ地蔵の前に移動し、焼香をすませる。年長者の3人がおると、あとは前列に入ってから地蔵の前に並び、焼香を次々にすませていく。終わったものは、椅子に戻り、全ての人が焼香をすませるまで待つ。

16:24 焼香が終わる  
最後に総代が焼香をすませると、住職による経典の唱和とともに、参加者もお経を囁む。

16:24 地蔵盆の法要が終わる  
住職の「これで終わります」の合図で、地蔵盆が終わる。住民たちは立ち、椅子の片付けをはじめると、住職をすく前の家に引きお茶をふるまう者、その場で会話を始める者との分かれた。

16:30 供え物の仕分け作業、住職の移動  
椅子の片付けが一段落すると、会話を続ける者、席に帰って行く者、テーブルを持ち出し供え物 (御下がり) の仕分け作業の準備をする者へと分かれた。住職はお茶を済ませ、次の地蔵盆の儀式を行うため、魚棚 (宮島の別地区) に移動した。

16:35 テーブルを配置  
長テーブルを2つ、横に並べ、作業スペースを確保する。

16:41 席に分配する住民の名前を記入  
ビニール袋をテーブルにならべ、御下がりを配る町内の各住民の名前を記入。年長者たちによるチェックを受けながら、40代の女性が書き作業にあたる。

16:40 地蔵盆の供え物をテーブル前に移動  
最年長の女性が地蔵が供え物を持ったことを確認し、地蔵堂前から供え物を移動する。

16:50 袋詰め  
均等に分けられるよう、7人で手分けして御下がりを袋につめていく。供え物には餅や豆などの菓物、豆やナック等のお菓子である。

16:56 各戸に分配  
詰められた御下がりには、その場に来た人たちは手渡し、その他については、作業にあたった3人がそれぞれ近所の御下がりを持って配りに行く。

17:00 供え物の仕分け作業が終わる  
配りに行ったのはそのままだと確認し、残ったものでテーブルや供え物の入ったダンボール等を片付ける作業を行う。なお、このときは、総代も作業にこわり、次の直会の準備について段取りも行う。

18:10 直会の合図の鐘が鳴らされる  
総代が、直会の合図を鳴らす。手持ちの鐘で、総代とそのあとに子どもたちが置いて行くかたちで、町内を鳴らしてまわる。

18:15 直会がはじまる  
合図を聞きつけて集まった住民14人ではじめられる。総代の挨拶と乾杯が行われ、各々は料理や会話を楽しむ。

18:25-30の間に、仕事帰りの大人 (男性) が6人駆けつけ、スポーツクラブを新入子どもが加入した。  
男性は、地蔵堂におきたまわって席をとり、町内のこと、消防団のこと、仕事のことなどを話し、女性は中央に座り、子どものお手をしながら、町内のことや仕事のこと、子どものことなどを話し、子どもは後で料理を食べながら遊んでいる。

18:25 今年生まれた子どもが紹介される  
総代が参加者の注目をひき、今年生まれた子どもが町内の方々に紹介される。両親は子どもを抱え立ち、挨拶をする。

20:30 直会が終わる  
料理と酒が尽きたころ、総代の切り出しで、直会が終わる。女性はテーブルの料理や食器の片づけにかかり、男性はテーブルを片付ける。子どもたちは、地蔵盆の餅で遊ぶ者や片付けられる、地蔵堂から持ち出し席に食べさせる。

20:45 片付けが終わる  
テーブルや食器の片付けが終わると、路上のよれを、井戸の水を汲み、きれいに洗す。以上で片付けが終わる。総代が最後に帰る。

図4 地蔵盆における空間利用

表2 祭礼と利用場所

祭礼・行事	場所	内容
菊花祭	境内	蔽島神社
清盛神社祭	境内	蔽島神社
桃花祭	境内	蔽島神社
献茶祭	境内	蔽島神社
社籠	境内	蔽島神社
百手祭	境内	大元神社境内
今伊勢神社例祭	境内	今伊勢神社
山王祭	境内	山王社
金比羅社例祭	境内	金比羅社
胡子祭	境内	長浜社
誓真祭	境内	光明院
弥山火渡り	境内	大聖院
管絃祭	境内・海	蔽島神社
玉取祭	境内・海	蔽島神社
御島巡式	境内・海	蔽島神社
鎮火祭	浜・境内	蔽島神社
氏神祭	道・境内	道・蔽島神社
たのもさん	境内・浜	四宮神社
盆踊り	ホール	会館
宮島かき祭り	商店街	商店街、棧橋前広場
餅つき	旅館・商店街	旅館・商店街
節分	路地	十字路・住居内
地蔵盆	地蔵前・路地	地蔵前

表3 地蔵盆の概要

時間	路地での行動内容	人数
15:22	参加者が集まりはじめる	3
15:27	椅子の準備がはじまる	7
15:53	住職が来る	9
15:56	参加者がそろう	15
16:06	地蔵盆の儀式がはじまる	15
16:18	焼香がはじまる	15
16:24	焼香が終わる	16
16:28	地蔵盆の儀式がおわる	16
16:30	椅子が片付けられる	13
16:35	机が並べられ、供え物の分配がはじまる	11
16:40	住職が別地区 (魚棚) での地蔵盆に移動	10
17:00	供え物 (御下がり) の分配作業がおわる	7
17:05	机が片付けられる	7
17:15	片付けが終わり、一時解散	3
17:39	直会の準備に人が集まる	3
17:41	テーブル、椅子の配置がはじまる	5
17:41	直会の合図の鐘が鳴らされる	9
18:15	直会がはじまる	14
18:25	今年生まれた子どもが紹介される	21
19:25	飲食を共にしながら会話が続く	22
20:30	直会がおわる	17
20:32	子どもたちが餅である笹を鹿に与える	14
20:45	片付けが終わり、解散	6

表4 地蔵盆参加者の概要

No.	年代/性別	参加状況	地蔵盆	直会
1	70 F	F	○	○
2	70 F	F	○	○
3	50 F	F	○	○
4	50 F	F	○	○
5	50 F	F	○	○
6	40 F	F	○	○
7	60 F	F	○	○
8	40 F	F	○	○
9	70 F	F	○	○
10	40 F	F	○	○
11	30 F	F	○	○
12	70 F	F	○	○
13	50 F	F	○	○
14	50 F	F	○	○
15	70 M	M	○	○
16	60 M	M	○	○
17	幼児	M	○	○
18	50 M	M	○	○
19	60 M	M	○	○
20	40 M	M	○	○
21	50 M	M	○	○
22	50 M	M	○	○
23	小・高 F	F	○	○
24	小・高 F	F	○	○
25	小・高 M	M	○	○
26	小・中 M	M	○	○
27	小・低 F	F	○	○

参加者について整理すると、18人が参加し、女性が圧倒的に多い(16/18)ことがうかがえる。時間帯が平日の16時からと、男性が就業中であることが起因していると考えられる。男性で参加したのは、総代と年長者の男性の2人である。この2人の男性や年長者は責任者としての役割を担い、実質的に作業を担うのは比較的若い女性たちが中心となっている。

そのあらわれとして、席の配置や、この後の作業の進め方などに差異が見受けられる。席は年長者が前列で、総代は後列で、全体の把握につとめ、あとはゆるやかに若いほど後ろ側になるような配列で法要に専念していた。

また、特徴的なのは、地蔵と井戸の前面には、広がった空間があるにも関わらず、そこには席を設けず、比較的狭い路地にほぼ3列、ほぼ6行にイスをコンパクトに並べて法要を行う点である。地蔵と井戸前面の広がった空間は、石畳が残されているなど、より神聖な場所として認識されているようである。そこでは基本的に住職が経を唱え、焼香の時にだけ上がって拝む。

## ② 地蔵盆・作業

地蔵のお供え物を町内の住民に御下がりとして分配する作業が行われた。2つの長テーブルが使用され、7人の女性たちで進められた。地蔵・井戸前の広い場所ではなく、狭い路地で行われる。作業の流れは、袋に分配先の名前を記入、供え物を地蔵前から移動、袋詰め、分配である。

40代の女性が作業をするのだが、最年長(70代)の女性をはじめ、年長(60)の女性が隣につき、指示をだす。また、年長者は、地蔵からお供え物をいただくときの確認を取る役目を担っており、むやみに地蔵堂から供え物を袋詰めできないなど、利用に関する規範が見てとれる。

## ③ 地蔵盆・直会

直会は、法要後の接待である。参加者は、はじめ14人で、最大22人が集まった。準備作業として、テーブルの設置、料理の搬送・配膳などがある。また、総代が鐘を鳴らして町内を歩き、合図をしまわること、法要から一時帰った住民たちや、仕事を終えた男性たちが集まる。

直会が、総代の挨拶ではじめられると、18:15から20:30の約2時間半の間、料理と会話を楽しむ。出された料理はそうめん、むすび、さしみ、ビール、ジュース等である。

特徴的な行動として、今年生まれた幼児の紹介が上げられる。総代が声を掛け、幼児を抱える両親が挨拶をする。人と人の距離が近いため、それぞれが生まれた赤ちゃんの顔を見たり、あやしたり、名前を聞いたりして、コミュニケーションを盛んに取っていた。

また、会話の内容には、町内会のこと、消防団のこと、仕事のことなど、小学校のこと、子どものことなど、地域に関係することが多く含まれている。

直会が終わると片付けにうつる。食器やテーブルなどは、路地沿いの家から持ち出されたものが多く、参加者の大半の人が手伝いながら、勝手口から片付けられていく。他人が比較的自由に出入りすることを許容することから、信頼関係が保たれていることがうかがえる。

また、井戸の水を利用して、地蔵・井戸周辺だけでなく、利用した路上のよごれを洗い流すなど、井戸の積極的な利用とともに路地の管理も見受けられた。

## 3-3 地蔵盆が継承される空間形態

地蔵盆が行われる路地空間の特徴をまとめる。

### (1) ヒューマンスケール

地蔵盆が交差型Ⅰの路地空間で継承されていることがわかる。また、魚の棚でも交差型Ⅱの広がった路地空間で行われている。どちらのケースも、交差型で形態に変化のある空間であり、D/H比0.3程度のヒューマンスケールな空間で祭礼が継承されていることがわかった。

### (2) 多様な居住空間

港町は、職住近接の居住地域でもある。路地空間を利用した乾物の販売など、住民向けの商業活動が見受けられる。そのため、居住者も多世代、多業種が混在し、建物自体は同様なものが並ぶが、住みこなしの過程で居住空間に多様性が出ている。多様な居住空間をはらんだ地域の路地を中心に、地蔵盆が継承されていることがわかった。

### (3) あふれだし

路地にはあふれだしが日常的に見られる。港町では、食料品や雑貨等を、通路脇にテーブルを並べ、陳列している。また、魚の棚では、植栽のあふれだしが確認できるほか、不整形な空き地が見られるなど、あふれだしを許容する空間が存在する。

このような様態は、他の路地空間でも見られるが、地蔵盆では、日常的なあふれだしを儀礼用に転用するかたちで、狭小な空間を活発に利用していた。

## 3-4 地蔵盆を継承するコミュニティ

地蔵盆を行うコミュニティの特徴をまとめる。

### (1) 住民同士の交流

地蔵盆では、住民同士がコミュニケーションする場面を数多く確認できる。なかでも、近年生まれた幼児を紹介するシーンや、子どもたちにあいさつをさせるシーンなどは、子どもを核とした多世代交流につながっている。

また、港町では、多業種の住民で参加者が構成され、魚の棚では、商業活動の盛んなエリアと、住宅が並ぶエリアをふくむ広い範囲から参加者が集まる。多様な構成メンバーが住民同士の交流に変化をつけている。



## (2) 個々人の役割

住民同士の間には、地域内の交流に加え、地蔵盆を共同運営する特徴がある。最年長の総代が、個々人の役割を明確にし、地蔵盆を運営している。高年層が主体となって運営の指揮をとり、その指示を若年層の女性がうけ、作業を円滑に進めている。年齢層に応じた役割を明確にしていることがわかった。

## (3) 場所と行動の対応

地蔵盆のときにみられる人の行動や、席の配置等からは、一定の規範性が読み取れる。座席は、子ども・大人の男性・大人の女性に分けられて会話や祭礼等を行う。また、準備作業の場所と、祭礼の場所は明確に分かれており、行為もそれに応じる。場所と行動様式を対応させていることがわかった。

## 4. まとめ

最後に、コミュニティ形成を視点に、路地空間と祭礼の関係についてまとめる。

本研究では、祭礼における路地空間の活発な空間利用について、地蔵盆を事例に考察を行った。祭礼を介在することで、住民の生活と近接しながらも、公共性を帯びたコミュニティ形成につながる外部空間として、路地空間が存在していることが分かった。

法要等の儀礼時には、地蔵・井戸前の広い空間が神聖な場所として位置づけられていると言える。この場所性を内包した路地空間を維持するための信頼関係も確認できた。狭い路地での作業は、町内の特に異世代の協力体制を醸成し、共通のテーマとも言える町内に関する会話を成り立たせていた。狭い路地での活発な活動は、コミュニティにも影響を与えていることが分かった。

さらに、祭礼として継承されることで、これらのコミュニケーションや、協力体制が担保され、また場所に対する愛着を醸成しているとも考えられる。そのあらわれとして、日常時からの地蔵と井戸の崇拝などが確認できた。

また、魚の棚では、普段は高台に安置された地蔵堂を、地蔵盆の時にだけ下の路地まで運び降る。そして、地蔵を囲む形で、路地にビニールシートを引き、法要と直会をすることが確認できた。路地の形態としては、港町ほど狭くなく、ゆとりのあるまとまった広がりを持っている。より多くの参加者を募り、高齢者に対応したため、広い路地を占有し、全体的に活用していると思われる。このように、路地形態にあわせて祭礼の形態を変化させることでコミュニティの継承を促していると考えられる。

宮島の路地空間は、空間形態やその地域のコミュニティをふまえて、地蔵盆を継承してきたといえる。コミュニティ形成を見ていくことで、以下のことが明らかになっ

た。

## (1) 多世代交流のしくみの内在

子どもたちを核に、多世代が交流するしくみとして、祭礼の役割は大きい。このことは、大人同士の交流も活発にし、コミュニティの継承を促しているといえる。

また、このような多世代交流のしくみが内在することで、外部の人間に対しても協力的な関係を築きやすいという傾向を確認できた。これは、観光的な視点で、不特定多数の人間に対してオープンにコミュニケーションを取るのとは異質の、指向性を持った地縁コミュニティの可能性を示していると考えられる。

## (2) 共同管理の負担を軽減する協力体制

また、生活行為だけでなく、多様な商業活動も伴った路地空間であることから、準備に必要な道具が身近にあることも明らかになった。それら、テーブルやイス、食器などは、近隣同士の個人所有物でまかなわれる。この協力体制は、コミュニティの運営に必要な道具の管理を、最小限に抑えている。共同管理の負担を軽減することで、コミュニティの持続性を担保しているといえる。

## (3) 場所のもつ意味の存在

祭礼時にみられた地蔵堂と井戸周辺は、1.5m程度高いレベル差があり、法要のときは神聖な場所として認識されていた。また、その場所性は、定期的な清掃や参拝など、日常的に存在していることも確認できる。

## (4) ヒューマンスケールとコミュニティの両立

路地空間で祭礼を継承することによって、コミュニティの一部を形成しているといえる。ヒューマンスケールな空間とコミュニティが両立するためのソフトシステムとして、祭礼が果たす役割の大きいことがわかった。

## (5) 外部の人間とのネットワーク形成

空間の公共的な利用と個人的な利用を、多世代交流とそこから延長する外部の人間との交流によって維持することで、観光目的以外での地域内外のネットワーク形成につながっていると推測できる。

## 謝 辞

本研究を進めるにあたり、多大なご協力をいただいた菊川照正氏をはじめとする、宮島の多くの方々には、深く感謝の意を表す。

## 文 献

- 1) 巖島民俗資料緊急調査報告書 (1972)
- 2) 「宮島本 (宮島検定)」(2006)
- 3) 平川隆啓, 脇田祥尚; 歴史的環境をふまえた外部空間の空間利用に関する研究その2, その3, 日本建築学会中国支部研究報告集 第30巻 pp.797~804 (2007)